令和４年度外国人児童生徒等教育充実のための研究協議会　記録
令和４年１２月１６日（金）　会場：伊勢崎市立第一中学校

公開授業　**題材　母国を紹介しよう**

【ねらい】
母国について日本語で発表するとともに、意見交換を通して友達との交流を図る。
【個別のねらい】　生徒３名（Ａ：２年生、Ｂ，Ｃ：３年生）
Ａ：聞き手に配慮し、発表内容に応じた表現の工夫をしながら発表することができる。
Ｂ，Ｃ：発表原稿をもとに、聞き取りやすい速さや発声で発表することができる。

生徒の実態に基づいたねらいの設定（「ISESAKIステップ（日本語ステップ）」の活用）

※「ISESAKIステップ」は、伊勢崎市の教育研究所が作成した日本語指導資料

つかむ

１学習のめあてをつかむ

在籍学級や学年の仲間との交流をゴールに置くことで学びたい思いを高める工夫

ホワイトボードに書かれた授業の流れを共有
（文字と対話による確認）

追究する

２発表会のリハーサル

聞いている相手に、自らのルーツへの誇りを感じさせる発表内容

ＰＰデータをモニターに映しながら発表リハーサル
（視覚化による理解支援）

３意見交流→見直し改善

母語も使える安心感

Ｔ１がコーディネートしながら意見交流、Ｔ２は言語支援
（学習内容の意識化・交流の活性化）

まとめる

４振り返り

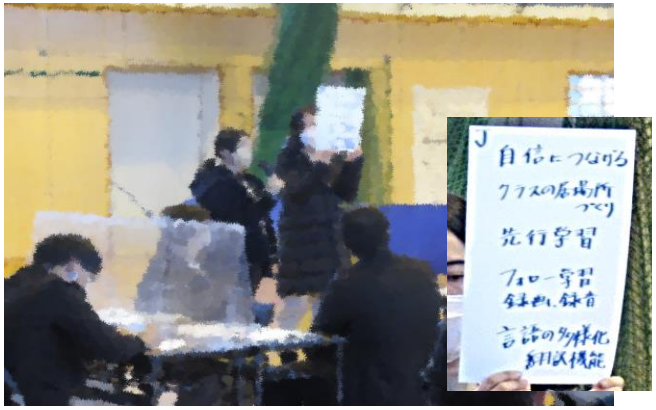
再度発表した後、本時で学んだことを振り返る
（学びの自覚・次時への意欲付け）

事後の学習

在籍学級で、作成したスライドを基に発表
（在籍学級への接続・生徒同士の相互理解）

協議会（班別協議）

【協議テーマ】　日本語指導教室と在籍学級をつなぐ指導の在り方
～ＩＣＴ活用をとおして～



＜班別協議で出されたキーワード＞

・教員間での情報共有　・翻訳機能　・フォロー学習　・録画・録音
・先行学習　・自学自習を促す　・非言語による伝達
・翻訳機能から生活のためのツールへ
・日本人生徒と外国人生徒が画像でやりとり
・プレゼンテーションをきっかけとした在籍学級との交流

・情報共有（学級担任や教科担当との役割分担、学校全体での支援体制）
・生徒の所属意識　・実態に応じた学習支援

＜参加者の感想より（公開授業含む）＞

・日本語教室が補充学習の場ではなく、在籍学級とつなぎ、子供の自己肯定感を高める重要な場だということを改めて気付かせてくれる授業公開だった。

・在籍学級の担任が、どのように生徒を受け入れるか、関わっていくか、ということも「繋いでいく」のにとても大切なのだろうと思う。

・課題を解決できるような実践や報告を聞き、勉強できる場があると嬉しい。

まとめ　日本語指導教室と在籍学級をつなぐには・・・

学びの連続性と連動が必要

①在籍学級の担任が日本語指導教室での頑張りを今まで以上に褒めて認めて励ます
役割分担　在籍担任：主体性（褒めて認めて励ます）　日本語指導教室：専門性
②「ハーモニー」等を活用し、日本語指導に関する基礎的な知識・技能について校内で共通理解を図る
③学校全体がチームとして一人一人の子供を大切にし、自分にできることを主体的に考える